～ 平田ロータリークラブ 週報 ～ No. 1969（平成 27 年 2 月 26 日）

■平田ロータリークラブ 事務局
〒691-0001 島根県出雲市平田町 2280-1 平田商工会議所 2F
TEL : 0853-63-3232 / FAX : 63-5365 / IP : 050-5204-5816
URL : http://hirata-rotary.jp/ Mail : office@hirata-rotary.jp
9:00 ～ 17:00 （土・日曜・祝祭日 休局）

2014-2015 年度
国際ロータリー会長／ ゲイリー C. K. ホァン 会長／ 内田 節夫 副会長／ 河原 治子
2690地区ガバナー／ 松本 祐二 幹事／ 福田磨寿穂 会 計／ 小村 益造

■■■ 例会プログラム ■■■

例 会 日	卓 話 者	演 題
2 月 26 日	米山奨学生 苗 婧（ミョウ セイ）様	私が見た日本とロータリー
3 月 5 日	会員 田中 浩史	会員スピーチ
3 月 12 日	会員 飯塚 俊之	新入会員スピーチ

■■■ 出席報告 ■■■

会員数	出席者数	欠席者数	出席率	前々回補正出席率
44	32	12 (4)	80.00%	87.50 %

■■■ 欠席者 ■■■
高砂／河原／園／園山／石原輝／三好／板垣／持田稔
（山根／牧野／木村／山口）

■■■ 来訪者 ■■■
今井（浜田）

■■■ メークアップ ■■■
な し

****

■■■ 次回例会受付当番 ■■■
（ 3 月 12 日 ） 土江光二／釜屋治男／加藤 昇
（ 3 月 19 日 ） 飯塚俊之／加藤喜久／黒田昌弘

■■■ 近隣クラブ例会情報（メークアップを考えましょう） ■■■

月	出雲中央 4/13 6/22 3/30・6/29(休)	松江南
火	出雲 4/7 3/7・4/14(休)	松江しんじ湖
水	大社	松江
木		松江東
金	出雲南	

■■■ 会長挨拶 ■■■

２月は逃げるといわれるほど早く、余す明日１日となりました。春分の日ももうすぐです。春分の日は1948年に「自然をたたえ、生物をいつくしむ日」として国民の祝日となりました。一年のうち最も忙しい3月、4月は行事も多いようです。ロータリーは3月識字率向上月間となっています。また、重点目標の会員増強の取り組みも、引き続いてお願い申し上げます。

さて、昨日の読売に戦後70年に関する全国世論調査（読売調べ）の実施結果が掲載されていました。

それによると、

☆平和国家として歩んできた 81%
☆個人の権利や自由が尊重されてきた 51%
☆経済発展を最優先してきた 61%
☆国際社会のため貢献してきた 43%

日本の歴代首相が、中国や韓国に対し過去の歴史事実について、謝罪を繰り返してきたことに対し、これまでの謝罪で十分だ、が 81%を占めています。

23日に中国が主宰した国連安保理事会の討論では、日本が平和国家の歩みを示したのに対し、中国は反ファシスト戦争勝利を強調したと報じられています。戦争による産物が大きな問題や歪をもたらし、世界平和を左右することを強く受け止めねばなりません。戦後、今日まで世界平和の先頭に立ち推進してきた日本に対し、国情や国民感情や、認識があるとしても鏡に映るものが異なるのは、悲しいことであります。今後も根気強い対話政策しか打つ手がない現状が苦しいところです。

■■■ 幹事報告 ■■■

1. 例会変更
○ 出雲中央 RC 4/13(月) 花見例会(夜間)
6/22(月) 家族同伴最終例会
ビジター受付 11:30～12:30 事務局

2. 休 会
○ 出雲中央 RC 3/30(月)・6/29(月) 定款第6条により
ビジター受付 な し

■■■ 委員会報告 ■■■
プログラム委員会 ： 3 月の例会行事予定紹介

■■■ スマイル ■■■

今井（浜田RC） （本日は米山奨学生 苗 婧さんがお世話になります。）
内田 （苗 婧様、浜田クラブ今井様、ようこそいらっしゃいました。）
黒田 （苗 婧様ようこそ。）
飯塚大 （苗 婧さん、ようこそいらっしゃいました。 浜田 RC 今井様、ようこそいらっしゃいました。お世話になりました。
本日はよろしくお願いいたします。）

■■■ スピーチ・例会行事 ■■■

「私が見た日本とロータリー」

米山奨学生 苗 婧（ミョウ セイ） 様

～ 中国 寧夏出身。 島根県立大学 大学院生

ただいま、ご紹介いただきました、本年度の米山奨学生として、皆様方にお世話になります苗せいでございます。皆様にお目にかかるチャンスをいただき、また、スピーチもさせていただくことに、心から感謝いたします。まことにありがとうございます。

それでは、自己紹介から、簡単にお話させていただきます。

わたくしは、苗せいと申します。苗字は「苗字」の「苗」という漢字で、名前は女偏に青という漢字です。中国の寧夏というところから参りました。日本の島根県と寧夏は友好関係が締結されております。そのおかげで、わたくしは 2011 年 2 月に交流県留学生として、島根県立大学の学部に入学し、2 年間勉強してまいりました。また、2013 年 4 月から、大学院生として、勉強の新たなスタートを切りました。今は島根県立大学大学院北東アジア専攻二年生です。

わたくしの故郷は、中国の内陸部に位置する寧夏回族自治区というところです。地理的にいうと、内モンゴル自治区、甘粛省、陝西省と接しております。北京から飛行機に乗って、西の方へ 2 時間ぐらい飛ぶと、わたくしの故郷に到着します。その時間はちょうど広島から上海まで飛行機でかかる時間です。

わたくしの故郷は、一部の地域が昔から黄河という大きな川のおかげで、米がおいしくて、米どころとも言われております。しかし、この川に恵まれていないところは乾燥しており、砂漠化が進んでおります。夏の最高気温は 38 度ぐらいにも達して、冬の最低気温はマイナス 20 度以下にもなります。温度差が大きいというのも特徴です。

寧夏には「回族」というイスラム教を信仰する少数民族の人々が多く住んでおりますので、異民族のやや独特な文化的雰囲気も感じられます。

わたくしのふるさとは中国の内陸部に位置するので、経済が未だ十分に発展されておらず、北京、上海のような大都市とは比べ物にはなりませんが、とても和やかで住みやすいところだと思っております。

しかし、故郷のその和やかさを楽しみながらも、日本語学科の学生だったわたくしにとって、日本人に出会ったことはありません。これまで、日本とわたくしの母国、中国との関係は「一衣帯水の近隣」とも言われておりますが、日本に来る前に、その「近隣」の日本にいつも距離感を感じておりました。

その時のわたくしにとって、日本は不思議な国に感じられました。それは「和魂漢才」と「和魂洋才」という二つの言葉で表せると思います。簡単に言うと、「和魂」とは日本民族固有の精神です。「漢才」とは昔から中国伝来の知識、学問のことで、それに対して、「洋才」とは明治以降、西洋から伝来した知識、学問のことです。

「和魂漢才」や「和魂洋才」という言葉で表されるように、日本古来の伝統文化を堅持しながら、外来文化を受容して、両者を調和させて、さらに文化を発展させていくというイメージを持っていたからです。本日、平田ロータリークラブの方々の前で、自分のそういう甘い日本認識を申し上げるのはとても緊張して、どきどきします。しかし、当時のわたくしは、日本という国をこのように捉えておりました。

お互いに矛盾する物事が日本という国においては妙に統一されて、バランスがよく取れていることをいつも不思議に思っておりました。そして日本は一体どのような国なのか、日本人はどのような人々なのか、強い興味を抱くようになりました。

寧夏大学二年生の時に人生で初めて日本人に出会いました。それは「島根県民友好交流団」の方々でした。交流団の方々は故郷の植林事業を支援してくださり、また私たち日本語学科の学生とも交流してくださいました。わたくしは、初めて本物の日本人と接して、その暖かい笑顔、社会貢献への強い意志、日中友好への努力にとても感動しました。

そして、この感動に大きく突き動かされ、日本をもっと感じたいという気持ちを持って留学してまいりました。

今は大学院での研究生活を楽しんでおります。大学院に入ってから、知の世界の広大さ、すばらしさを身を持って感じて、もう一度勉強の楽しさを分かったような気がいたします。受験や単位のための勉強ではなく、ただ、自分がこの世界に分からないことが山ほどあるということに気づいて、それを知りたいためにもっと色々な勉強をしたいという単純な楽しさを味わっております。

それでは、わたくしの研究テーマについて、簡単にご説明させていただきます。

わたくしは「郭嵩燾（カクスウトウ）」という人物を研究しております。名前はとても言いにくいので、「郭さん」と簡単に呼ばせていただきます。郭さんは中国最後の王朝・清朝末期の政治家・外交官です。深い儒教的教養をもちながら一般の中国人が体験できない駐英外交公使という特別な経歴も持っておりました。

中国の清朝末期という日本の幕末維新期に似た状況において、郭さんのなかで伝統的価値と近代的価値が影響を与え合って、どのような西洋認識が形成されたのかを知ることは、わたくしにとって、とても魅力的な研究課題です。

現代社会では、特にグローバル化が進行している途中で、どの国にとっても、自国の文化を発信しながら、他国の文化を受容することが必要になってまいりました。しかし、それは現代社会の課題だけではなく、郭さんが生きていた 150 年前の中国は、初めて西洋の衝撃を受けた時に、その課題の解決を模索し始めました。

歴史とは現在と過去との対話だとも言われております。郭さんを研究することも過去と現在との繋がりを見つけようという努力です。郭さんの対外認識を研究することにより、伝統文化を堅持しながら、どのように新しい文化を取り入れるか、固有文化と外来文化とのバランスをどのようにとるべきか、という問題を考えることができます。これは、グローバル化が進んでいる現代において、自国の文化発展と国際的な文化交流をどのように進めたらよいのかを考えるうえでの一助となる可能性もあると考えております。

ここまでお聞きになると、「その研究は日本ではなくて、中国でやればもっといいんじゃないですか」という考えを皆様がお持ちになるかもしれません。実は、その質問を米山奨学生選考の時に面接官の森本直前ガバナーから聞かれました。聞かれた時に、どうお答えしたのか、緊張していて夢中で答えたので、忘れてしまいましたが、そのご質問のおかげで、色々考えさせられました。

わたくしはどうして日本で、中国のことについて勉強しているのでしょうか。恥ずかしながら、それは「中国人の中国知らず」とも言えることだと思います。もともとの感心があるところは中国ではなく、日本にありました。皆様もご存知のように、日本は明治維新によってすごいスピード

で発展し、近代化の優等生とも言われるようになりました。逆に、わたくしの母国の中国は近代化の劣等生ともいわれて、苦痛の歴史が長く続いてまいりました。同じアジアの国なのに、どうしてそんなに違ったのか、という疑問が自分の中に出てきて、またその答えを日本で見つけようとしました。

しかし、勉強すればするほど、日本のことどころか、自分が母国中国のことについて何も知らないのではないか、と初めて気づくようになりました。だから、日本にいる間に、四半世紀も生活してきた母国を新たな視点で、相対的な視点で見る貴重なチャンスをいただいて、色々勉強できるのではないか、と森本直前ガバナーの質問で気づかせていただきました。日本にいるからこそ、中国がもっとよく見られると信じており、いろいろ勉強させていただくことに感謝いたしております。

「中国人の中国知らず」だけではなく、日本語学科の学生としても、日本へ留学に参った留学生としても、実に「日本知らず」とも言えるでしょう。本当に見ると聞くとでは大違いでした。例えば、江戸時代のときに、日本は鎖国政策を行っており、外国との交流も簡単に取れなかったので、外国のことを分からないのが当たり前でした。しかし、現代になると、インターネットの発展やグローバル化の進行によって、外国の情報がいくらでも、すぐ手に入る時代になりました。だから、外国のことを簡単に理解できるし、すでによく理解しているとも勝手に信じるようになりますが、それは日本に来て、初めて大きな間違いだと気づきました。

日本に来る前のわたくしにとっては、テキスト、テレビ、インターネットから得た情報によって、硬い日本イメージしか持っておりませんでした。日本はずっと遠くて触れられない存在でした。しかし、留学するチャンスをいただいて、日本に来てから、初めて日本の美しさ、安全さ、日本人の礼儀正しさ、勤勉さや心の優しさを身を持って経験できるようになりました。これまで頭で想像するしかない日本ではなくて、肌と心で感じられる日本が自分の心の中にできあがっていく過程は楽しくて仕方がありません。「百聞は一見にしかず」ということわざも疑いなく信じるようになりました。

しかし、一留学生として、「百聞」より「一見」が実現されても、この目で見られる日本はやっぱり限られております。だから、一見だけではなく、日本を二見、三見、百見もしようとすると、わたくし一人では限界があると思っております。だからこそ、米山奨学生とさせていただき、皆様からお世話していただくことにとてもありがたく感じて、感謝の気持ちでいっぱいです。

わたくしにとって、日本のことについて、皆様に色々教えていただきたいのは言うまでもなく、また、米山奨学生という立場を通して、日常、わたくしの周囲におられる方々だけではなく、ロータリアンの方々でもある皆様からもっと色々勉強できるのではないかとも思っております。

仕事関係を通じてお互いに信頼関係を築いていこうというロータリークラブの成立趣旨から、奉仕の心を持って日本ロータリークラブを設立された米山梅吉という方の他人への思いやり、戦後の復興に向かって、ロータリアンの方々の、平和を望んでいるという強い思いをこめる米山奨学事業まで、人間と人間との信頼関係、社会奉仕の心、平和への望み、若者の理想と夢などなど、人間の美しい心を見守って、支えておられるのはロータリアンの皆様だと勉強し、感じております。

本日、平田ロータリークラブにお邪魔したのも、勉強する貴重なチャンスをいただき、光栄に感じております。

出雲市平田地区は海、湖、川と山という豊かな自然に恵まれて、伝統文化にも満ち溢れているとてもきれいな町だと勉強し、楽しみにしながら、本日お邪魔させていただきました。

特に、平田ロータリークラブの本年度のテーマ、「心を一つに　～新しい出発のときを共に前進しよう～」について、とても感銘を受けました。40 年の歴史と伝統を引き継ぎながら、新しい発展の出発点ともして、前進しようというテーマは、過去と未来をつないで、ロータリアンの方々の努力によって、ロータリーの新しい歴史を作っていく、という意味ではないかと理解しております。

本日、ご出席の方々の中に、初めてお目にかかる方は多くおられます。皆様は各業界のエリートだということについて、皆様と色々なお話をさせていただく中で、わたくしが想像していた以上に凄い方々が集まっている団体なんだなと驚くと思います。

各業界のエリートの方々と一留学生、確かにそのギャップは怖いほど大きいです。しかし、わたくしの身勝手なお願いを申し上げて誠に恐縮ですが、わたくしは、皆様のことを人生の道の先生として見させていただきます。長い人生の道を歩んでこられて、いっぱい経験されて、いっぱい楽しんでこられた皆様の武勇伝って言うか、豊な人生物語を教えていただければと思っております。

年齢はもうおばさんに近づいて悲しいですが、ずっと学生として勉強生活を送っておりますので、これからの人生で道に迷うことが山ほどあると思います。だから、人生の道の先生としての皆様から色々アドバイスしていただければ、心強く歩んでいけると思っております。

米山奨学生とさせていただきまして、その嬉しさは簡単に言葉では言い表せないほどの喜びです。学校では「大学院生」という身分を持っておりますが、皆様の前では、27 歳の中国の女子学生でしかありません。ですから、この学生に対して、皆様は日本の方々として、ロータリアンの方々として、各業界のエリートの方々として、そして、人生の道の先生方として、色々教えていただければ幸いに思っております。ぜひとも、よろしくお願いいたします。

以上です。ご清聴、ありがとうございました。